

「花いっぱい長谷まつり」プログラム

日 時：平成 22 年 6 月 19 日 13:15～17:00

場 所：旧長谷小学校体育館 他

参加者：柴北川を愛する会、長谷探検隊、黒松 Family 青年会、長谷地区のみなさん、大野川流域ネットワーク、共助研

プログラム内容

- ・田植え 10:00～11:30 視点場前たんぼ
- ・報告会 13:15～16:45

1. 開 会 13:15～13:30

- ・進行係 渡邊事務局長
- ・主催者あいさつ 「花いっぱい長谷まつり」実行委員長 大塚 松信
- ・来賓あいさつ 豊後大野市長 橋本 祐輔

2. 報告会 13:30～14:55

- ・「花いっぱいのふる里づくり」事業 共助研（波多野）
- ・探検報告 長谷探検隊
- ・跡地利用アンケート結果 跡地利用検討委員会
- ・青年会活動 黒松 Family 青年会
- ・視点場愛称決定・表彰 黒松 Family 青年会

休 憩 14:55～15:00

3. ふる里づくりワークショップ 15:00～16:00

3班に分かれてワークショップ

- ・「長谷の宝物」
- ・「花いっぱい」
- ・「長谷での暮らし」

4. 活動発表会 16:00～16:15

- ・長谷3B体操クラブ

5. ミニコンサート 16:15～16:45

- ・共助研（ギター演奏（矢ヶ部）、ピアノ演奏（武市））
- ・全員（長谷小学校校歌、今日の日はさようなら斉唱）

6. 閉 会 あいさつ 渡邊事務局長

報告会内容

1. 開 会

- ・主催者あいさつ（大塚実行委員長）

平成 16 年 12 月に柴北川を愛する会が設立され、約 5～6 年経ってだんだんこのような大きなイベントが出来るようになりましたのも、一昨年からの福岡の共助研というグループの支援のお陰です。柴北川を愛する会の設立は、私が退職して、川端に我が家を建てまして、毎日見る川が非常に汚いことに気付き、何とかしなければということで、大野川ネットワーク

の事務局長さんに協力して貰って、会を設立して活動を始めました。それから6~7年経って今年度初めて長谷中の川に蛍が飛ぶようになりました。また、石にコケが付き、アユが上ってきて食べるようになり、川が大変きれいになっています。皆さんが一生懸命宣伝して、愛する会が浸透してきた成果の現れではないかと思います。みんなで柴北川を中心にこの地域を発展させて頂きたいと願っています。今後ともご協力をお願いして私の挨拶とさせていただきます。

・来賓あいさつ（橋本豊後大野市長）

花いっぱい長谷まつりが開催されることをお慶び致します。今大塚会長さんのお話にありましたこの村をきれいにしよう、この長谷地区を大事にしようという思いが伝わってまいります。

午前中は田植えをされたということで、地域一丸となってこの地域を守ろうという気持ちが伝わってまいりました。私も市長になってここに一番多く訪れています。それほど皆さんに來いよと呼びかけて頂いています。私もこの地域は非常に好きであります。渡邊さんから、市長読めと事業の詳細な報告書を頂きました。私も真剣に読まして頂いています。本日は雨の予報が晴れて、皆さんの思いが通じたようです。今日は一日参加する予定でおりましたが、口蹄疫の対応のため、少しいろんなことが起こりました。そのことで少し皆さんにご報告申し上げたいと思います。

…新聞報道等の経緯と市役所の対応の背景について報告… 市民の生活を守るという立場で真剣に対応しております。大変申し訳ありませんが本日は新聞報道等の対応のため、この後帰らせて頂きたいと思います。今回の豊後大野市の取った行為については間違っていないと感じていますので是非ご理解を頂きたいと思います。本日はゆっくり楽しんで下さい。

2. 第1部 報告会

1) 「花いっぱいのふる里づくり」事業の報告（共助研（波多野））

- ・「花いっぱいのふる里づくり」事業は柴北川を愛する会が中心になって活動し、共助研がサポートさせて頂くという形態で実施しました。
- ・当事業は林野庁の補助事業で、数ある山村再生プランの中から選定されたプロジェクトです。
- ・対象地区は長谷地区です。
- ・今回のプロジェクトは大きく二つの事業をメインにやっています。一つは山桜の資源調査と視点場整備、もう一つが長谷地区の長谷小学校の跡地活用に関するワークショップです。

(1) 山桜の資源調査と視点場整備について

- ・4つの内容からなっています。①山桜の資源調査（芝北川流域に自生している山桜の実態調査）、②調査結果の公開（インターネット等で公開）、③山桜を活用した花いっぱいの里づくり計画の作成、④視点場設定と視点場の整備

①山桜の資源調査にあたっては勉強会を行い、日本でも数少ない樹医の佐藤樹医に調査方法を指導して頂きました。

調査は11月~1月にかけて3回（第1回：奥の院地区、第2、3回：松巖寺地区）実施し、105本の山桜を調査しました。

②調査した結果はGPSで1本ずつ緯度経度を調べてGISを使用してグーグル地図上にプロットしています。（1本1本の情報が参照出来るようにしています）建設コンサルタンツ協会のHPで見ることができます。

④視点場整備は柴北川を愛する会の方と調べて松巖寺のたもとを選定し、大分県の方に土地利用の許可を取って頂き、コンペを実施して整備案を決定しました。その後整地を行い、看板や椅子等を設置しました。

(2) 長谷地区ワークショップについて

①ワークショップに先立ち小学校の現状確認を行いました。

(その際、校長先生から小学校や長谷地区について教えて頂きました)

②共助研メンバーが地域の状況を把握するため、長谷のイベント(黒松神楽、DMCの撮影場所、小学校の文化祭等)に参加・見学させて頂きました。

③第1回ワークショップ(11月15日:小学校体育館)を実施しました。参加者は19名、3班に分かれて討議しました。内容は、いろいろな方向性を見るために、長谷の良いところ、悪いところ、10年後良くなるところ、悪くなるところをテーマにしました。

④第2回ワークショップ(12月6日:黒松生活改善センター)は参加者26名、中学生、高校生にも参加して頂きました。内容は第1回ワークショップの内容をもとに、まちとの交流、コミュニケーション、地域振興の3つのテーマで3班に分かれて討議をしました。

全体討議のまとめとして、地元の方が地元を歩き、深く知る長谷学が大事じゃないかという意見が出て、長谷探検隊の結成に至りました。

⑤小学校の活用計画作成について

現状のまま何もなかった場合に10年後長谷地区がどうなっているかとの観点から意見を交わし、地域作りを点から線、線から面に広げていき、そのために短期、中期、長期の行動計画のタイムスケジュールを設定した方が良いとの意見が出されました。

⑥今後の展開について

山桜以外に長谷地区の花いっぱい運動のいろんな花の歳時記を作ってみてはどうか、長谷探検結果による資源マップの作成等の案が出されました。

上記の林野庁の補助事業活動は今後4年間継続して事業を続ける必要があります。地区のみなさんと共助研のみなさんと一緒になって、あと4年間具体的な事業を続けたいと思いますのでよろしくお願い致します。(渡邊事務局長)

2) 探検隊報告

①探検隊について(渡邊事務局長)

最初は地区の人全員で実施する予定でしたが、隊長をしたいという子供が生まれて、その彼女の同級生達中学3年生が中心になって自発的に活動を進めています。

これまで2回の探検を実施しています。

1回目は栗ヶ畑城、2回目は小学校の前の川の淵と田植えをした少し上流の洗足という地区の車淵を探検しましたのでその成果を発表します。

②探検調査報告(長谷探検隊)

- ・前回は大昔に存在した栗ヶ畑城について調べ、大野川河川シンポジウムで発表しました。
- ・今回は柴北川について探検しました。梅の木淵、測り石、車ん淵等の淵や石の名前の由来、昔の川幅、取れた魚の種類等を教えて貰いました。また、この探検の時、絶滅したとされていた「かじか」が数年前に発見されたことを聞きました。

③探検隊指導員の紹介（三浦氏、〇〇氏）

3) 跡地利用アンケート結果（跡地利用検討委員会：穴見事務局長）

校舎、特別教室、体育館、グラウンドの利用方法に関するアンケート結果について報告

4) 青年会活動報告（黒松 Family 青年会：安藤会長）

・黒松ファミリー青年会の活動状況について報告

（字の看板設置、盆踊り関連事業、もちつき大会、交流会、ぶろぐ開設／運営など）

・視点場愛称決定・表彰（黒松 Family 青年会）

17個の愛称が提出され、その中から次の3つ（松巖寺さくら公園、せせらぎ公園、さくら見台）が上位同数で選ばれ、この3つの中から選考委員が選考し「松巖寺さくら公園」に決定しました。

表彰：最優秀賞1点「松巖寺さくら公園」、優秀賞2点 「せせらぎ公園」「さくら見台」

3. 第2部 ふる里づくりワークショップ

ワークショップの進め方の説明：波木事務局長（共助研）

長谷を舞台にしたいろいろな地域づくりの活動が紹介されました。これまでのいろいろな活動により長谷が良くなって来ていると思いますが、現時点は、田植えで言うとやっと代掻きが終わった段階と思っています。これから続いて苗を植え、もしくは花壇の花の種を植えるということは、今から皆さんがやるべきことだろうと思います。ではどんな花を植えるかを、皆さんとお話できればと思っています。

先ほど田植えをしながら感動しました。初めて苗を植えるという経験をした面白さは、当然あったのですが、横一線に沢山の方が並んで、隣を見ると私らの仲間ではなくて、大野川の関連の方とか地元の方が入っておられて、そういう方々が一斉に田植えをしている。このみんなでやっている姿がおそらくこれから長谷の地域づくりに根付いていけば、本当にいいなと思ひまして、皆さんが共同でやっている姿に感動しました。

これから一緒に地域づくりをする際に、どんなところから入って行こうか、というところを議論していただきたいと思います。

今から1時間ぐらい、話し合いの時間を取ります。皆さんにいきなり、どうしましょう、夢は何ですかと聞いても難しいので、次の3つのテーマを用意しました。

どれか気に入ったテーマを選んで頂いて、それぞれのテーブルに移動して下さい。リードは共助研メンバーのやさしいおじさん達が行います。

1) 「長谷の宝物」

・長谷の宝物は何だろう、どうやって守って、宣伝していくのか等を話しあって下さい。

2) 「花いっぱい」

・愛する会の花いっぱい運動をこれからどんなふうにつけていくのか、それから去年調査しました山桜を今後どう使っていったらいいのか、花をキーワードにお話して下さい。

3) 「長谷での暮らし」

・小学校は無くなった。お年寄りも増えています。そんな中でこれからも末永く長谷に住み続けたい、そのためにはどうしたらいいだろうかということで話し合ってください。

ワークショップ内容

1)「長谷の宝物」

●自然

- ・ 山に囲まれた独特の風景
- ・ 自然と柴北川は宝の宝庫
- ・ 柴北川の石像
- ・ 自然の営みが充実
- ・ 山桜
- ・ 石像文化
- ・ 自然の素晴らしさ
- ・ 星、ホテルがきれい

●ふる里（空間）

- ・ 心のふる里
- ・ 季節の日常風景
- ・ 文化
- ・ 風土
- ・ 長谷小学校
- ・ 長谷の風景による癒し

●人

- ・ 昔の宝をお年寄りから聞く
- ・ 子供達が宝
- ・ 風景を守る人の力

●ふる里を知ってもらうことづくり

- ・ 資源＝宝物
- ・ 資源を見つける
- ・ 地域づくり
- ・ ふる里を知る
- ・ 他地区の人々をイベントへ呼び込む
- ・ トンネルを抜けたときの広がる風景
- ・ ふる里をキャッチフレーズとする

●条件立地

- ・ 大分市から近い立地条件が宝

- ・ 呼び込むための方

●おもてなし

- ・ 友達に見せる
- ・ ふる里の映画
- ・ 地域づくり
- ・ 身近な人を呼ぶ
- ・ 一見さんを大切にする

2)「花いっぱい」

●注意事項

- ・花の高さ、大きさをどう考えるか
- ・自然に生えている花
- ・地域にあった花
- ・管理が大変なものはダメ

●春

- ・れんげ草
- ・ダイコンの花
- ・桜
- ・柴桜
- ・沿道水仙
- ・みかんの花
- ・豊梅（ピンク）
- ・休耕田の菜の花

●夏

- ・ねむの木
- ・紫陽花
- ・まつば菊
- ・向日葵
- ・オーシャンブルーの朝顔
- ・朝顔
- ・オニユリ
- ・虫取りナデシコ
- ・ムクゲ

●秋

- ・畦道の彼岸花
- ・彼岸花
- ・休耕田のコスモス

●冬

- ・クロッカス
- ・サザンカ

●風景

- ・秋口の稲、イチョウ
- ・稲の青と黄金色
- ・山田神社の「竹の秋」
- ・三のタキの桜
- ・ほっとする風景、音、におい
- ・トンネルを抜けたときの広がる風景
- ・白花の群生（カツラ川）
- ・山田、栗々畑のホタル
- ・初夏の緑（田）
- ・秋の黄金色（田）

3)「長谷での暮らし」

●自然

- ・静かで自然に囲まれている
- ・住みやすい
- ・自然がいっぱいでよい
- ・里山は人がいるので自然が守られる
- ・ホテルや魚釣り等の宝物がある
- ・情報発信や人の移動の手伝いをしてあげると活性化するのではないか
- ・食べ物がおいしい
- ・自分の家のまわりの環境が好き
- ・桃が鈴なりになる
- ・楽しんで生活している
- ・よい生活環境

●自然がある・生活しやすい

(大分中心部に近い)

- ・生活するのに田舎すぎるのは淋しい
- ・大分市の近●で住める
- ・長谷の暮らしは快適
- ・大分市内に出るのに不便はない
- ・自然がいっぱい
- ・人付き合いがよい
- ・帰りたくない場所ではない
- ・住みにくくはない
- ・自然がある
- ・大分市が近い

●店

- ・近所に店がない(自動販売機のみ)

●若者

- ・若者が定住できない環境
- ・若者がいなくなる(都会に出て、帰って来る見通しが無い)

ワークショップの総括：安藤顧問（愛する会）

3点についてコメントしてみます。

1) 柴北川を愛する会の活動について

平成18年7月に発足しました。その前はこの長谷は元気の無い里でした。それが先ほどから発表にあるようにさまざまな面で大きく変容してきています。これは長谷地区の人々に非常に元気をもたらしています。こうして地区外の人と交流が生まれて、絆が生まれて、ああ来て良かったなと、ここに居られるみんながそういうふうを感じているのではないかと思います。

自分たちが植えた花があんなに満開になる、あんなにすばらしい桜を見る場所が出来た。そういうことを仕上げた、完成した喜び、成就、そういうものを感じている地元の人もあると思います。その中で、自分たちで自分たちの周りの環境を良くしていかなければいけない、そういう自覚が自然に生まれて来ている。これは間違い無い事実だと思います。これが5年間の柴北川を愛する会のすばらしい活動だったと思います。それを絶やしてはいけません。もっとますます発展させていく役割があると思います。

2) 長谷田植えまつりにについて

いろんな方の協力体制が揃ってすばらしい田植えまつりが出来たと思います。外部から来た人も、すばらしい、新しい体験をさせて頂いたという喜びでいっぱいだという反応がありました。この地域の人もやればできるんだという実感、自信にもつながったと思います。はたして秋にうまく実るか実らないかは課題ですが、いずれにしても今日の田植えが成功した。私は70%成功したと思っています。ただ、この行事を外部にどう広げていけばいいのか、また長谷に来たいという、そんな気持ちをどうしたら持って貰えるか、それがこれからの長谷まつりの課題ではないかと思います。

3) これからの柴北川を愛する会の課題を5つ申し上げます

- ① 私は75年間の知識を持っています。今の内にお年寄りの持っている力を活かして頂きたい。そういう場を作って頂きたい。
- ② 今日は残念なことに長谷地区民の参加が少ない。むしろ外部から見えた人の方が多かった。このことは長谷地区のひとの意識が足りなさにつながっていると思う。そういうことを克服していかないと長谷の地域づくりは出来ないと思う。
- ③ 子供の参加率です。子供と親が参加していると思っていたが、ありませんでした。何か呼びかけなければいけないのではないかと。参加すれば景品を上げる等をPRすればまた違ってくるのではないかと。
- ④ PRです。インターネット等を早急に作って、遠く広くPRすることが求められていると思います。
- ⑤ 最後に、後継者の育成です。長谷地区探検隊、私も支援の立場で参加していますが、この子供達が学習するだけでなく、地域の文化や歴史を研究してくれる。そして後世に受け継いでくれる。そういうことを願いながら私は一緒に学習しているつもりです。ただ学ぶだけではなくて、学んだことを長谷に来た人にガイドできる。そんな力を備えてくれればありがたい。という期待を込めています。それから黒松の青年会がこの活動を長谷全体に広げたい、すばらしい発想と私は思います。これはおそらく長谷の活性化に大きく寄与

るのではないかと思います。ぜひその重さを実感されて青年会と協力して頑張ってください。これが後継者を育てることにつながっていくと思います。

6. 閉会あいさつ：渡邊事務局長

今日は地元長谷地区の方達の参加が少ないというのは私たちのPR、発信が悪かったと思っています。今まで活動にちょっぴり自信が無かったのかなと感じています。

これまでにあっちこっちで発表してきましたし、今日のような発表も出来ました。もう自信を持って地区のみなさんに一緒にやろうよと勧めていいのではないかと思います。

黒松の青年会のみなさんも、長谷全体の青年会を、というふうな視野を持っていますので、青年会をとわず、婦人会にも声をかけてやっていきたいと考えています。

共助研の皆様は今日お帰りだということですので、大変お疲れと思いますが、お気をつけてお帰り頂きたいと思います。

国土交通省の皆様もお忙しいところ大変ありがとうございました。

それからたくさんの仲間の方において頂いて盛り上げて頂きました。時間が来てしまいましたのでこれでお開きにしたいと思います。たいへんありがとうございました。

「花いっぱい長谷まつり」プログラム

日 時：平成 22 年 6 月 19 日 13:15～17:00

場 所：旧長谷小学校体育館 他

参加者：柴北川を愛する会、長谷探検隊、黒松 Family 青年会、長谷地区のみなさん、大野川流域ネットワーク、共助研

プログラム内容

- ・田植え 10:00～11:30 視点場前たんぼ
- ・報告会 13:15～16:45

1. 開 会 13:15～13:30

- ・進行係 渡邊事務局長
- ・主催者あいさつ 「花いっぱい長谷まつり」実行委員長 大塚 松信
- ・来賓あいさつ 豊後大野市長 橋本 祐輔

2. 報告会 13:30～14:55

- ・「花いっぱいのふる里づくり」事業 共助研（波多野）
- ・探検報告 長谷探検隊
- ・跡地利用アンケート結果 跡地利用検討委員会
- ・青年会活動 黒松 Family 青年会
- ・視点場愛称決定・表彰 黒松 Family 青年会

休 憩 14:55～15:00

3. ふる里づくりワークショップ 15:00～16:00

3班に分かれてワークショップ

- ・「長谷の宝物」
- ・「花いっぱい」
- ・「長谷での暮らし」

4. 活動発表会 16:00～16:15

- ・長谷3B体操クラブ

5. ミニコンサート 16:15～16:45

- ・共助研（ギター演奏（矢ヶ部）、ピアノ演奏（武市））
- ・全員（長谷小学校校歌、今日の日はさようなら斉唱）

6. 閉 会 あいさつ 渡邊事務局長

報告会内容

1. 開 会

- ・主催者あいさつ（大塚実行委員長）

平成 16 年 12 月に柴北川を愛する会が設立され、約 5～6 年経ってだんだんこのような大きなイベントが出来るようになりましたのも、一昨年からの福岡の共助研というグループの支援のお陰です。柴北川を愛する会の設立は、私が退職して、川端に我が家を建てまして、毎日見る川が非常に汚いことに気付き、何とかしなければということで、大野川ネットワーク

の事務局長さんに協力して貰って、会を設立して活動を始めました。それから6~7年経って今年度初めて長谷中の川に蛍が飛ぶようになりました。また、石にコケが付き、アユが上ってきて食べるようになり、川が大変きれいになっています。皆さんが一生懸命宣伝して、愛する会が浸透してきた成果の現れではないかと思います。みんなで柴北川を中心にこの地域を発展させて頂きたいと願っています。今後ともご協力をお願いして私の挨拶とさせていただきます。

・来賓あいさつ（橋本豊後大野市長）

花いっぱい長谷まつりが開催されることをお慶び致します。今大塚会長さんのお話にありましたこの村をきれいにしよう、この長谷地区を大事にしようという思いが伝わってまいります。

午前中は田植えをされたということで、地域一丸となってこの地域を守ろうという気持ちが伝わってまいりました。私も市長になってここに一番多く訪れています。それほど皆さんに來いよと呼びかけて頂いています。私もこの地域は非常に好きであります。渡邊さんから、市長読めと事業の詳細な報告書を頂きました。私も真剣に読まして頂いています。本日は雨の予報が晴れて、皆さんの思いが通じたようです。今日は一日参加する予定でおりましたが、口蹄疫の対応のため、少しいろんなことが起こりました。そのことで少し皆さんにご報告申し上げたいと思います。

…新聞報道等の経緯と市役所の対応の背景について報告… 市民の生活を守るという立場で真剣に対応しております。大変申し訳ありませんが本日は新聞報道等の対応のため、この後帰らせて頂きたいと思います。今回の豊後大野市の取った行為については間違っていないと感じていますので是非ご理解を頂きたいと思います。本日はゆっくり楽しんで下さい。

2. 第1部 報告会

1) 「花いっぱいのふる里づくり」事業の報告（共助研（波多野））

- ・「花いっぱいのふる里づくり」事業は柴北川を愛する会が中心になって活動し、共助研がサポートさせて頂くという形態で実施しました。
- ・当事業は林野庁の補助事業で、数ある山村再生プランの中から選定されたプロジェクトです。
- ・対象地区は長谷地区です。
- ・今回のプロジェクトは大きく二つの事業をメインにやっています。一つは山桜の資源調査と視点場整備、もう一つが長谷地区の長谷小学校の跡地活用に関するワークショップです。

(1) 山桜の資源調査と視点場整備について

- ・4つの内容からなっています。①山桜の資源調査（芝北川流域に自生している山桜の実態調査）、②調査結果の公開（インターネット等で公開）、③山桜を活用した花いっぱいの里づくり計画の作成、④視点場設定と視点場の整備

- ①山桜の資源調査にあたっては勉強会を行い、日本でも数少ない樹医の佐藤樹医に調査方法を指導して頂きました。

調査は11月~1月にかけて3回（第1回：奥の院地区、第2、3回：松巖寺地区）実施し、105本の山桜を調査しました。

- ②調査した結果はGPSで1本ずつ緯度経度を調べてGISを使用してグーグル地図上にプロットしています。（1本1本の情報が参照出来るようにしています）建設コンサルタンツ協会のHPで見ることができます。

④視点場整備は柴北川を愛する会の方と調べて松巖寺のたもとを選定し、大分県の方に土地利用の許可を取って頂き、コンペを実施して整備案を決定しました。その後整地を行い、看板や椅子等を設置しました。

(2) 長谷地区ワークショップについて

①ワークショップに先立ち小学校の現状確認を行いました。

(その際、校長先生から小学校や長谷地区について教えて頂きました)

②共助研メンバーが地域の状況を把握するため、長谷のイベント(黒松神楽、DMCの撮影場所、小学校の文化祭等)に参加・見学させて頂きました。

③第1回ワークショップ(11月15日:小学校体育館)を実施しました。参加者は19名、3班に分かれて討議しました。内容は、いろいろな方向性を見るために、長谷の良いところ、悪いところ、10年後良くなるところ、悪くなるところをテーマにしました。

④第2回ワークショップ(12月6日:黒松生活改善センター)は参加者26名、中学生、高校生にも参加して頂きました。内容は第1回ワークショップの内容をもとに、まちとの交流、コミュニケーション、地域振興の3つのテーマで3班に分かれて討議をしました。

全体討議のまとめとして、地元の方が地元を歩き、深く知る長谷学が大事じゃないかという意見が出て、長谷探検隊の結成に至りました。

⑤小学校の活用計画作成について

現状のまま何もしなかった場合に10年後長谷地区がどうなっているかとの観点から意見を交わし、地域作りを点から線、線から面に広げていき、そのために短期、中期、長期の行動計画のタイムスケジュールを設定した方が良いとの意見が出されました。

⑥今後の展開について

山桜以外に長谷地区の花いっぱい運動のいろんな花の歳時記を作ってみてはどうか、長谷探検結果による資源マップの作成等の案が出されました。

上記の林野庁の補助事業活動は今後4年間継続して事業を続ける必要があります。地区のみなさんと共助研のみなさんと一緒になって、あと4年間具体的な事業を続けたいと思いますのでよろしくお願い致します。(渡邊事務局長)

2) 探検隊報告

①探検隊について(渡邊事務局長)

最初は地区の人全員で実施する予定でしたが、隊長をしたいという子供が生まれて、その彼女の同級生達中学3年生が中心になって自発的に活動を進めています。

これまで2回の探検を実施しています。

1回目は栗ヶ畑城、2回目は小学校の前の川の淵と田植えをした少し上流の洗足という地区の車淵を探検しましたのでその成果を発表します。

②探検調査報告(長谷探検隊)

- ・前回は大昔に存在した栗ヶ畑城について調べ、大野川河川シンポジウムで発表しました。
- ・今回は柴北川について探検しました。梅の木淵、測り石、車ん淵等の淵や石の名前の由来、昔の川幅、取れた魚の種類等を教えて貰いました。また、この探検の時、絶滅したとされていた「かじか」が数年前に発見されたことを聞きました。

③探検隊指導員の紹介（三浦氏、〇〇氏）

3) 跡地利用アンケート結果（跡地利用検討委員会：穴見事務局長）

校舎、特別教室、体育館、グラウンドの利用方法に関するアンケート結果について報告

4) 青年会活動報告（黒松 Family 青年会：安藤会長）

・黒松ファミリー青年会の活動状況について報告

（字の看板設置、盆踊り関連事業、もちつき大会、交流会、ぶろぐ開設／運営など）

・視点場愛称決定・表彰（黒松 Family 青年会）

17個の愛称が提出され、その中から次の3つ（松巖寺さくら公園、せせらぎ公園、さくら見台）が上位同数で選ばれ、この3つの中から選考委員が選考し「松巖寺さくら公園」に決定しました。

表彰：最優秀賞1点「松巖寺さくら公園」、優秀賞2点 「せせらぎ公園」「さくら見台」

3. 第2部 ふる里づくりワークショップ

ワークショップの進め方の説明：波木事務局長（共助研）

長谷を舞台にしたいろいろな地域づくりの活動が紹介されました。これまでのいろいろな活動により長谷が良くなって来ていると思いますが、現時点は、田植えで言うとやっと代掻きが終わった段階と思っています。これから続いて苗を植え、もしくは花壇の花の種を植えるということは、今から皆さんがやるべきことだろうと思います。ではどんな花を植えるかを、皆さんとお話できればと思っています。

先ほど田植えをしながら感動しました。初めて苗を植えるという経験をした面白さは、当然あったのですが、横一線に沢山の方が並んで、隣を見ると私らの仲間ではなくて、大野川の関連の方とか地元の方が入っておられて、そういう方々が一斉に田植えをしている。このみんなでやっている姿がおそらくこれから長谷の地域づくりに根付いていけば、本当にいいなと思ひまして、皆さんが共同でやっている姿に感動しました。

これから一緒に地域づくりをする際に、どんなところから入って行こうか、というところを議論していただきたいと思います。

今から1時間ぐらい、話し合いの時間を取ります。皆さんにいきなり、どうしましょう、夢は何ですかと聞いても難しいので、次の3つのテーマを用意しました。

どれか気に入ったテーマを選んで頂いて、それぞれのテーブルに移動して下さい。リードは共助研メンバーのやさしいおじさん達が行います。

1) 「長谷の宝物」

・長谷の宝物は何だろう、どうやって守って、宣伝していくのか等を話しあって下さい。

2) 「花いっぱい」

・愛する会の花いっぱい運動をこれからどんなふうにつけていくのか、それから去年調査しました山桜を今後どう使っていったらいいのか、花をキーワードにお話して下さい。

3) 「長谷での暮らし」

・小学校は無くなった。お年寄りも増えています。そんな中でこれからも末永く長谷に住み続けたい、そのためにはどうしたらいいだろうかということで話し合ってください。

ワークショップ内容

1)「長谷の宝物」

●自然

- ・ 山に囲まれた独特の風景
- ・ 自然と柴北川は宝の宝庫
- ・ 柴北川の石像
- ・ 自然の営みが充実
- ・ 山桜
- ・ 石像文化
- ・ 自然の素晴らしさ
- ・ 星、ホテルがきれい

●ふる里（空間）

- ・ 心のふる里
- ・ 季節の日常風景
- ・ 文化
- ・ 風土
- ・ 長谷小学校
- ・ 長谷の風景による癒し

●人

- ・ 昔の宝をお年寄りから聞く
- ・ 子供達が宝
- ・ 風景を守る人の力

●ふる里を知ってもらうことづくり

- ・ 資源＝宝物
- ・ 資源を見つける
- ・ 地域づくり
- ・ ふる里を知る
- ・ 他地区の人々をイベントへ呼び込む
- ・ トンネルを抜けたときの広がる風景
- ・ ふる里をキャッチフレーズとする

●条件立地

- ・ 大分市から近い立地条件が宝

- ・ 呼び込むための方

●おもてなし

- ・ 友達に見せる
- ・ ふる里の映画
- ・ 地域づくり
- ・ 身近な人を呼ぶ
- ・ 一見さんを大切にする

2)「花いっぱい」

●注意事項

- ・花の高さ、大きさをどう考えるか
- ・自然に生えている花
- ・地域にあった花
- ・管理が大変なものはダメ

●夏

- ・ねむの木
- ・紫陽花
- ・まつば菊
- ・向日葵
- ・オーシャンブルーの朝顔
- ・朝顔
- ・オニユリ
- ・虫取りナデシコ
- ・ムクゲ

●風景

- ・秋口の稲、イチョウ
- ・稲の青と黄金色
- ・山田神社の「竹の秋」
- ・三のタキの桜
- ・ほっとする風景、音、におい
- ・トンネルを抜けたときの広がる風景
- ・白花の群生（カツラ川）
- ・山田、栗々畑のホタル
- ・初夏の緑（田）
- ・秋の黄金色（田）

●春

- ・れんげ草
- ・ダイコンの花
- ・桜
- ・柴桜
- ・沿道水仙
- ・みかんの花
- ・豊梅（ピンク）
- ・休耕田の菜の花

●秋

- ・畦道の彼岸花
- ・彼岸花
- ・休耕田のコスモス

●冬

- ・クロッカス
- ・サザンカ

3)「長谷での暮らし」

●自然

- ・静かで自然に囲まれている
- ・住みやすい
- ・自然がいっぱいでよい
- ・里山は人がいるので自然が守られる
- ・ホテルや魚釣り等の宝物がある
- ・情報発信や人の移動の手伝いをしてあげると活性化するのではないか
- ・食べ物がおいしい
- ・自分の家のまわりの環境が好き
- ・桃が鈴なりになる
- ・楽しんで生活している
- ・よい生活環境

●自然がある・生活しやすい

(大分中心部に近い)

- ・生活するのに田舎すぎるのは淋しい
- ・大分市の近●で住める
- ・長谷の暮らしは快適
- ・大分市内に出るのに不便はない
- ・自然がいっぱい
- ・人付き合いがよい
- ・帰りたくない場所ではない
- ・住みにくくはない
- ・自然がある
- ・大分市が近い

●店

- ・近所に店がない(自動販売機のみ)

●若者

- ・若者が定住できない環境
- ・若者がいなくなる(都会に出て、帰って来る見通しが無い)

ワークショップの総括：安藤顧問（愛する会）

3点についてコメントしてみます。

1) 柴北川を愛する会の活動について

平成18年7月に発足しました。その前はこの長谷は元気の無い里でした。それが先ほどから発表にあるようにさまざまな面で大きく変容してきています。これは長谷地区の人々に非常に元気をもたらしています。こうして地区外の人と交流が生まれて、絆が生まれて、ああ来て良かったなと、ここに居られるみんながそういうふうに感じているのではないかと思います。

自分たちが植えた花があんなに満開になる、あんなにすばらしい桜を見る場所が出来た。そういうことを仕上げた、完成した喜び、成就、そういうものを感じている地元の人もあると思います。その中で、自分たちで自分たちの周りの環境を良くしていかなければいけない、そういう自覚が自然に生まれて来ている。これは間違い無い事実だと思います。これが5年間の柴北川を愛する会のすばらしい活動だったと思います。それを絶やしてはいけません。もっとますます発展させていく役割があると思います。

2) 長谷田植えまつりにについて

いろんな方の協力体制が揃ってすばらしい田植えまつりが出来たと思います。外部から来た人も、すばらしい、新しい体験をさせて頂いたという喜びでいっぱいだという反応がありました。この地域の人もやればできるんだという実感、自信にもつながったと思います。はたして秋にうまく実るか実らないかは課題ですが、いずれにしても今日の田植えが成功した。私は70%成功したと思っています。ただ、この行事を外部にどう広げていけばいいのか、また長谷に来たいという、そんな気持ちをどうしたら持って貰えるか、それがこれからの長谷まつりの課題ではないかと思います。

3) これからの柴北川を愛する会の課題を5つ申し上げます

- ① 私は75年間の知識を持っています。今の内にお年寄りの持っている力を活かして頂きたい。そういう場を作って頂きたい。
- ② 今日は残念なことに長谷地区民の参加が少ない。むしろ外部から見えた人の方が多かった。このことは長谷地区のひとの意識が足りなさにつながっていると思う。そういうことを克服していかないと長谷の地域づくりは出来ないと思う。
- ③ 子供の参加率です。子供と親が参加していると思っていたが、ありませんでした。何か呼びかけなければいけないのではないかと。参加すれば景品を上げる等をPRすればまた違ってくるのではないかと。
- ④ PRです。インターネット等を早急に作って、遠く広くPRすることが求められていると思います。
- ⑤ 最後に、後継者の育成です。長谷地区探検隊、私も支援の立場で参加していますが、この子供達が学習するだけでなく、地域の文化や歴史を研究してくれる。そして後世に受け継いでくれる。そういうことを願いながら私は一緒に学習しているつもりです。ただ学ぶだけではなくて、学んだことを長谷に来た人にガイドできる。そんな力を備えてくれればありがたい。という期待を込めています。それから黒松の青年会がこの活動を長谷全体に広げたい、すばらしい発想と私は思います。これはおそらく長谷の活性化に大きく寄与

るのではないかと思います。ぜひその重さを実感されて青年会と協力して頑張ってください。これが後継者を育てることにつながっていくと思います。

6. 閉会あいさつ：渡邊事務局長

今日は地元長谷地区の方達の参加が少ないというのは私たちのPR、発信が悪かったと思っています。今まで活動にちょっぴり自信が無かったのかなと感じています。

これまでにあっちこっちで発表してきましたし、今日のような発表も出来ました。もう自信を持って地区のみなさんに一緒にやろうよと勧めていいのではないかと思います。

黒松の青年会のみなさんも、長谷全体の青年会を、というふうな視野を持っていますので、青年会をとわず、婦人会にも声をかけてやっていきたいと考えています。

共助研の皆様は今日お帰りだということですので、大変お疲れと思いますが、お気をつけてお帰り頂きたいと思います。

国土交通省の皆様もお忙しいところ大変ありがとうございました。

それからたくさんの仲間の方において頂いて盛り上げて頂きました。時間が来てしまいましたのでこれでお開きにしたいと思います。たいへんありがとうございました。